

可児市議会事業別評価シート(外部評価シート)

外部評価者 NPO法人 縁塾

1. 事業概要(事業実施前に議会で記入)

事業名	高校生議会
実施日	平成31年2月5日(火)
場所	市役所5階第1委員会室及び議場
目的	キャリア教育支援として、可児高生と地域の大人の代表である議員が地域の課題について意見交換を行い、今後のまちづくりにつなげる。
主な内容	議員のファシリテートにより、2019年度開催予定の山城サミットや2020年放送予定の明智光秀を主人公としたNHK大河ドラマ「麒麟がくる」を契機とした今後の市のPRや集客について、議員・高校生がグループに分かれ意見交換を行う。

2. 評価指標(事業実施前に議会で設定)

		H28	H29	H30
指標内容		前々回目標	前回目標	今回目標
		前々回実績	前回実績	今回実績
成果指標	参加してよかったと回答した割合	-	70	70
	今後の自分の行動に活かせると回答した割合	-	89	70
参考値	参加生徒数	30	30	30
		35	20	57

※成果指標(アウトカム)の設定が難しい場合は、参考値として活動指標(アウトプット)を記入。

3. 評価項目・評価結果(①事業実施前に項目を議会で設定、②事業実施後に一次評価を議会で記入、③一次評価後に二次評価を外部評価者で記入)

項目	一次評価(自己評価)		二次評価(外部評価)	
	評価理由等	評価	評価理由等	評価
事業の目的や内容、評価指標等が事前に全議員に共有されていたか	議会改革特別委員会や議会全員協議会において、事前の説明がされており、目的や内容、評価指標については共有されていた。一方で生徒がファシリテートすることや、Kanisuki若者プロジェクトに参加していることが早くに共有できていれば、違う展開もあったのではないかと。	B	開始前の事前打ち合わせにて、必要事項は共有されていた。さらに詳細な情報の共有の必要性は一次評価に同じ。また、テーマに関して、議員が適切に情報提供を行えるよう、最低限必要な情報を事前にまとめ、共有しておくことができるとなっておよかった。	A
当日の意見交換が活発に行われるため、事前学習を行うなどの工夫があったか	事前学習会を行ったことは良かったと思うが、参加者が少なかつた。意見交換に参加した生徒の半数程度が事前学習を行うと効果・成果が出てくるものと思われる。	B	事前学習として戦国山城ミュージアムに行ったのは、高校生の興味関心を高めることに繋がり、よかった。また可児高校教諭によるファシリテーションの手引き資料配布および事前レクチャーがあったことにより、ファシリテーションがはじめての高校生も混乱せずに取り組めた。ファシリテーションの手引きは必要。山城サミットのチラシを見て、イメージを膨らませていたので、何かしら参考資料は必要。議員は情報提供者として事前に、高校生に共有する情報をまとめておけるとなっておよかった(参加高校生の知識レベルに差があった)。	B
生徒が話しやすい雰囲気や進行により、多くの意見聴取につながったか	ファシリテート役の子は、進行を気にして自分の意見を出しづらそうな面も見られたが、生徒同士で率直な意見が引き出せたと思う。	A	最初は雰囲気がかたかったが、議論がはじまって盛り上がると空気が和らいだ。はじめてこういった場に参加する高校生の中にはアイスブレイクという言葉を知らない高校生もいたので、最初の場づくりは丁寧に進めたほうがよい。全体の場のルール(否定しない・一人が話しすぎないなど)をはじめに共有しておくことよい。全体の進行も高校生に任せるとよいかと考える。事前にファシリテーターを決めておいてよかった。書記が戸惑っているように感じられるグループもあったので、ポストイットの使い方も全体の場で説明できるとよい。机がやや大きすぎた。端に座っていた高校生が参加しづらかった(ファシリテーターを端の席にする?)。全員が議論に参加するにはやや人数が多い。	B

時間配分、内容(テーマ設定を含む)等は妥当であったか	時間配分は妥当であり、また、概ねスケジュール通りに進行できた。テーマについても、高校生が身近なところから意見を出しやすかったものだったと思う。	A	可児市としても力を入れていくテーマであり、高校生にも身近なテーマでもあったため、高校生議会で取り扱う内容としては適当であった。時間配分は各グループで考えて行っていたが、目安の時間配分を全体として設定しておく、ファシリテーターが進めやすいかと思われる。この提案に高校生がどう関わっていくか、どう実現までもっていくか(協力者や予算、スケジュール)など実現を意識した議論もできるとなよかったと考える(提案だけに終わらせない)。	A
聴取した意見について、適切な対応(市民への公表や議会で取り組むべき課題か判断するなど)を行っているか	行政として計画にあるもの、実現できるもの、新たに予算化するものを公開できれば高校生も興味を示すと思われる。なお、その前段として、既に計画されているものや実現が難しいものは、グループ内で議員が理由等を説明するといった対応や、また、事前に聴取した意見の取り扱いを決めておくことの必要性については、今後検討すべき課題である。	B	具体的にどのような手続きをとり、どの程度、いつまでに実現されるのかを会の中で共有できるとよい(高校生のモチベーションとなる)。参加した生徒にはその後の対応を通知し、可能であれば実現に向け取り組めるとよい。アイデア発散に終わらないよう、提案がどのように扱われていくかを明確に示す必要がある。	B
総合評価	高校生がファシリテートしたことにより、活発な意見交換ができ、キャリア教育の一助としての目的は達成できたものと思われる半面、議員が聞き役に回ってしまい、生徒と議員のやりとりが少なかった点では残念である。なお、57名の生徒の参加があったことはこれまで続けてきた一定の成果と思われる。	A	ファシリテートへの挑戦、地域課題について考える、議場で提案・発表を行うなど、高校生が普段経験できないことを経験できる場となった。また参加者も過去最大であったことも評価すべきである。高校生議会での学びやアイデアをその場だけにとどめず、どう次につなげていくかを今後検討する必要がある。	B

※評価区分は、S「期待以上」、A「期待どおり」、B「概ね期待どおり」、C「期待に満たない」の4段階

#### 4. 事業の分析・次期改善点等(二次評価後に議会で記入)

可児市のまちづくりに関するテーマだったため、生徒の参加者数が過去最多であったことは評価できる。また、高校生がファシリテーターとなって進行できたことも貴重な体験として有効だと思われるが、時間配分や進行においてグループによるバラつきがあった。全体でのオリエンテーションで進行のルールや時間配分について共有することが必要である。また、高校生議会で得たアイデアをその場だけにとどめず、どう次につなげていくかを今後検討する必要がある。